

目次

◆ 宝グループとは

- 01 Vision
- 02 目次
- 03 宝グループのあゆみ
和酒・日本食とライフサイエンスにおける
多様な価値を提供し続ける宝グループの挑戦
- 05 宝グループのひろがり
世界にひろがる宝グループ
- 07 特集1 日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透の推進
北米における日本食文化普及の歴史とさらなる浸透を目指して
- 09 特集2 遺伝子治療の重要プラットフォーム
ウイルスベクターの製造・開発への取り組み
- 11 宝グループの「いま」
財務ハイライト
非財務ハイライト

◆ 価値創造ストーリー

- 13 トップメッセージ
ROIC経営の浸透と、成長・強化領域への投資を加速させ、
企業価値を高めます
- 19 財務担当役員メッセージ
資本効率を高め、持続的な成長の実現と
グループの企業価値向上に取り組んでまいります
- 21 宝グループの価値創造プロセス
- 23 宝グループの資本
- 25 人事担当役員メッセージ
Visionの実現に向け多様な人材が自律的に成長を目指し、
チャレンジする組織風土の醸成に取り組んでまいります
- 27 宝グループのアイデンティティ
- 28 長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」
- 29 宝グループ中期経営計画2025
- 32 事業戦略 宝酒造
- 33 事業戦略 宝酒造インターナショナルグループ
- 34 事業戦略 タカラバイオグループ

◆ 宝グループのサステナビリティ

- 35 各マテリアリティにおける活動状況
- 37 宝グループ・サステナビリティ・ポリシー
- 38 環境
- 45 安全・安心
- 47 健康
- 49 人材
- 51 酒類メーカーとしての責任
- 52 コミュニティ
- 53 豊かな食生活
- 55 調達
- 56 人権
- 57 ガバナンス
- 63 社外取締役メッセージ

◆ 財務戦略・企業情報

- 65 役員一覧
- 67 11ヵ年連結財務サマリー
- 69 連結財務諸表
- 73 事業等のリスク
- 75 主要子会社データ
- 76 投資家情報

編集方針

宝グループレポートは、ステークホルダーの皆様へ当社グループの企業価値向上に向けた取り組みをお伝えすることを目的に発行しています。今回は特集において、宝酒造と宝酒造インターナショナルグループによる日本食文化の世界浸透の推進活動、タカラバイオグループによるウイルスベクターの開発・製造への取り組みを取り上げました。トップメッセージではROIC経営を通じた企業価値の向上と中期経営計画「宝グループ中期経営計画2025」の進捗について説明しています。宝グループレポートを通して、当社グループが目指す、商品・サービスを通じた社会課題の解決と、成長原資を生み出す「稼ぐ力」の向上を統合した経営、それらを通じたVision実現についてお伝えできればと考えています。

対象範囲:

宝グループ連結(一部単体の数字を含む)

対象期間:

2024年3月期(2023年4月～2024年3月)
※一部2023年以前、2024年4月以降の取り組みも報告しています。

見直しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見直し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見直しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものです。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決などがありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

参照ガイドライン

IFRS財団 国際統合報告フレームワーク
経済産業省 価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0



宝酒造株式会社

(国内事業)

独創的で確かな技術に裏付けられた
和酒を提供する

宝酒造インターナショナル株式会社

(海外事業)

和酒・日本食を通じて
日本の食文化を世界に広める

タカラバイオ株式会社

(バイオ事業)

遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の
開発を通じて人々の健康に貢献する

笑顔は人生の宝

「タカラ」と聞いたら、
皆さんはお酒をつくる会社だと思われるでしょうか。
間違いではありませんが、宝グループが本当につくりたいのは「笑顔」。
たくさんの笑顔で、あなたの人生を満たしたいと考えています。

180年以上にわたり磨き続けている酒づくりの技術も、
世界に広がる日本食材卸のネットワークやお酒の製造拠点も、
再生・細胞医療・遺伝子治療等の革新的なバイオテクノロジーも、
すべては笑顔をつくるため。

例えば、今夜のお酒の席で、ニューヨークの食卓で、
研究や医療の現場でも、あなたを笑顔にするため。

笑顔は人生の宝。
宝酒造、宝酒造インターナショナル、タカラバイオからなる宝グループは
それぞれのユニークな方法で、
世界中を笑顔にするための挑戦を続けます。

宝ホールディングス株式会社

宝酒造株式会社 / 宝酒造インターナショナル株式会社 / タカラバイオ株式会社

Smiles in Life

宝グループについて



宝グループのあゆみ

和酒・日本食とライフサイエンスにおける 多様な価値を提供し続ける宝グループの挑戦

宝グループの出来事

							
1842 創業(四方家4代目卯之助が伏見・竹中町で酒造業を開始)	1925 寶酒造(株) (現 宝ホールディングス(株))設立	1946 社是「三重三慎」を発表	2002 分社化、持株会社体制に移行。 宝酒造(株)、タカラバイオ(株)設立、 宝ホールディングス(株)へ商号変更	2017 創立90周年を機に 宝ホールディングス歴史記念館 を開設	2017 宝酒造(株)の海外事業を分社化し、 宝酒造インターナショナル(株) を設立	2020 長期経営構想 「TaKaRa Group Challenge for the 100 th 」、 「宝グループ・サステナビリティ・ポリシー」を策定	2023 Visionを 「Smiles in Life～笑顔は人生の宝～」に アップデート

事業のあゆみ

宝酒造(国内事業) 国内酒類/調味料/酒精事業

											
1897 「寶」印の商標を みりんにおいて登録	1977 焼酎復権に向け 宝焼酎「純」を発売	1984 国内初の缶入りチュー ハイ、タカラcanチュー ハイを発売	1998 タカラ本みりん「醇良」 を発売	2001 芋と芋麹でつくる 全量芋焼酎「一刻者」 を発売	2001 高品質酒の生産拠点 として灘に「松竹梅白 壁蔵」が完成	2006 辛口チューハイ タカラ 「焼酎ハイボール」 を発売	2007 極上〈宝焼酎〉を発売	2011 松竹梅白壁蔵「滞」 を発売	2017 地域限定チューハイ 「寶CRAFT」を発売	2022 松竹梅「昴」 〈生貯蔵酒〉を発売	2022 辛口ノンアルコール チューハイ タカラ「辛 口ゼロボール」を発売

宝酒造インターナショナルグループ(海外事業) 海外酒類事業/海外日本食材卸事業

											
1951 米国に清酒「松竹梅」 の輸出を開始	1983 米国宝酒造を設立 し、米国産「松竹梅」 の製造・販売を開始	1986 トマーチン社(英国)の 資産・営業権を取得	1992 エイジ・インターナ ショナル社(米国)の 親会社AADC社の 全株式を取得	1995 北京寶宝食品有限公司 (現 宝酒造食品有限 公司)を設立し、中国産 「松竹梅」の製造開始	2010 フーデックス社 (フランス)の株式を 取得し、海外日本食材 卸事業に参入	2013 タザキフーズ社 (英国)の経営権を 取得	2014 コミンポート・ディス トリビューション社 (スペイン)の経営権 を取得	2016 ミューチャルトレー ディング社(米国) を子会社化。米国に 日本食材卸網を展開	2017 ニッポンフード社 (オーストラリア)の 増資を引き受け子 会社化	2020 東京共同貿易(株)の株式 を取得し子会社化	2023 オンタリオ社(カナダ) の株式を取得し 子会社化

タカラバイオグループ(バイオ事業) 試薬/機器/受託/遺伝子医療

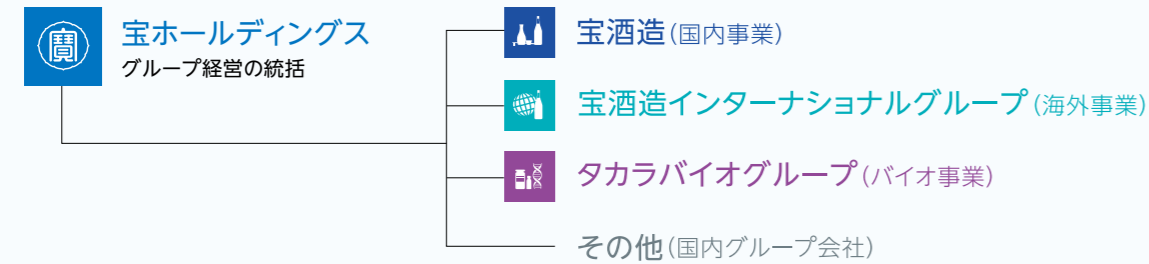
											
1979 国産初の遺伝子工 学研究用試薬「制限 酵素」を発売 (バイオ事業を開始)	1988 PCR法による遺伝子 増幅システムの国内 独占販売権を獲得	1993 全世界にわたる広範な PCR関連特許ライセンス を取得。中国でバイオ研 究用試薬の製造を開始	1995 血球系幹細胞に高効率 に遺伝子を導入する レトロネクチン [®] 法を 開発	2004 東京証券取引所 マザーズに株式を上場	2005 米国Clontech Laboratories, Inc. (現 Takara Bio USA, Inc.)の経営権を取得	2014 スウェーデン ヨーテボリ 市のCollectis ABの全 株式取得、Takara Bio Europe ABに商号変更	2014 遺伝子・細胞プロセッ シングセンター竣工。 CDMO事業を本格 的に開始	2016 東京証券取引所 マザーズから同市場 第一部へ市場変更	2018 滑膜肉腫対象のNY- ESO-1-siTCR 遺伝子 治療薬が「先駆け審査指 定制度」の対象品目に指定	2020 遺伝子・細胞プロセッ シングセンター2号棟 稼働	2020 体外診断用医薬品 「Takara SARS-CoV-2 ダイレクトPCR検出キッ ト」製造販売承認取得

宝グループのひろがり

世界にひろがる宝グループ

宝グループは、酒造業からスタートし、バイオ事業、海外日本食材卸事業まで事業領域を拡大してきました。2024年3月末現在、宝グループは国内12社、海外52社、合計64社(連結対象会社)にまで広がっています。また、地域的にも日本のみならず、欧米・アジア各国で事業活動を展開し、半数以上の従業員が海外で勤務しており、グループの人財も多様化しています。

企業概要



宝酒造(国内事業)



180年余りにわたって培った技術力と、新たな発想で唯一無二の「和酒」を追求

主な事業内容 焼酎・清酒・ソフトアルコール飲料といった「和酒」から、中国酒やウイスキーなどの輸入酒、本みりんをはじめとする調味料、原料用アルコールまで、幅広いカテゴリーの商品を製造・販売



宝酒造インターナショナルグループ(海外事業)



グローバルネットワークで、日本食文化の世界浸透を推進

主な事業内容 「海外酒類事業」、「海外日本食材卸事業」を展開し、日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透を推進



タカラバイオグループ(バイオ事業)

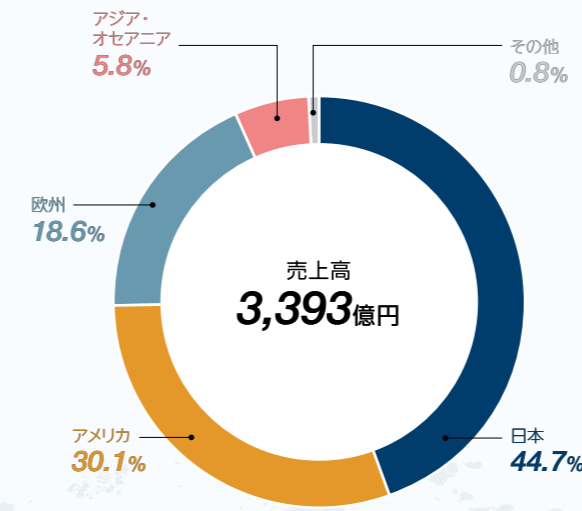


ライフサイエンス産業のインフラを担うグローバルプラットフォーマー

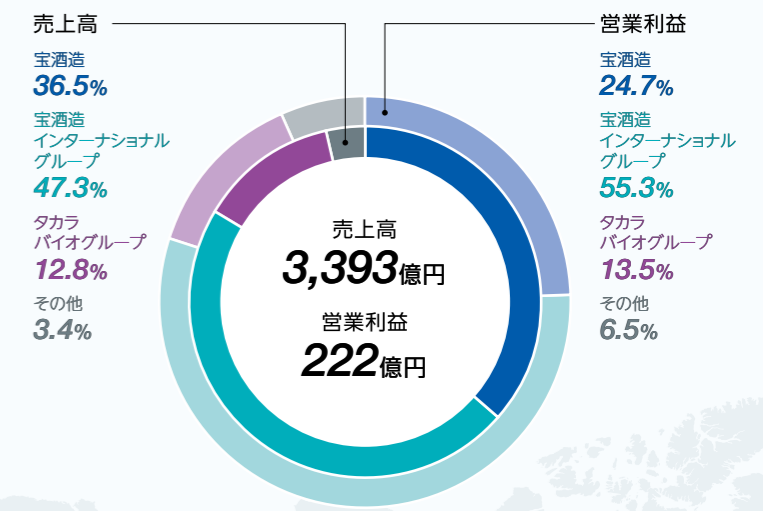
主な事業内容 国内外に試薬・機器を提供するとともに、再生医療等製品などの先進的な医薬品の開発製造受託などの事業を展開



地域別割合



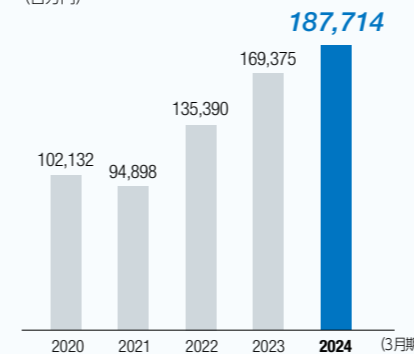
事業別割合



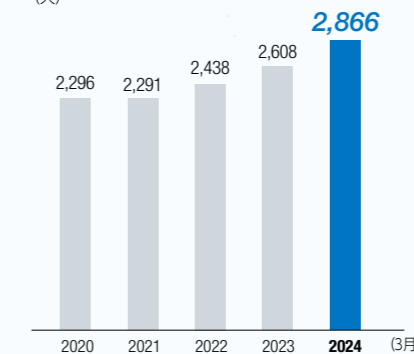
(2024年3月期)



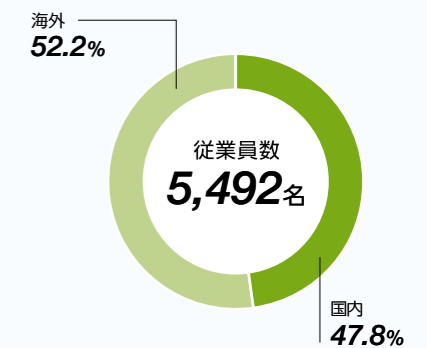
海外売上高推移(百万円)



海外従業員数推移(人)



国内外従業員比率 (2024年3月31日現在)





特集1 日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透の推進

北米における日本食文化普及の歴史とさらなる浸透を目指して

宝酒造インターナショナルグループは、米国における日本食材卸のパイオニアである1926年創業のMutual Trading Co., Inc.(以下、MTC)と、1983年設立の和酒の製造・販売会社であるTakara Sake USA Inc.(以下、米国宝酒造)を中心に、北米における日本食文化(和酒・日本食)の普及に努めています。MTCは全米で日本食材卸のネットワークを拡大し、米国宝酒造はその販路を活用して和酒の育成に努めるなど、シナジーを発揮しています。さらに、日本食や和酒の文化を積極的に啓発するなど、日本食文化のさらなる浸透を目指しています。

米国日本食材卸のパイオニア—Mutual Trading Co., Inc.



ロサンゼルスMTC本社

MTCは、1965年より米国における寿司の普及を促進するとともに、1971年には宝酒造から純米酒(「デラックス松竹梅」)の輸入を開始。1989年から日本食レストランショー(現:Japanese Food & Restaurant Expo)を開催するなど、100年近く米国における日本食文化の普及に努めてきました。こういった背景から、MTCは飲食店への提案に強みを持っており、品揃えは10,000品目を超え、飲食店の開業に必要なアイテムをワンストップで揃えることができます。さらに、日本からの仕入れを担う東京共同貿易(株)との連携により、日本酒の品揃えも豊富で、日本で人気の銘柄を取り扱っていることが強みです。



Japanese Food & Restaurant Expo 2023

40年の歴史に裏打ちされた高い技術力—Takara Sake USA Inc.

米国宝酒造は、健康志向で寿司ブームが広がりを見せた1983年に設立、カリフォルニア産「松竹梅」の製造・販売を開始しました。現地の米と水を使用した清酒造りには数々の創意工夫が必要でしたが、「全米日本酒飲評会」で、「松竹梅 純米大吟醸」が金賞を受賞するなど、日本国内と同レベルの味わいと品質を実現しています。今では「松竹梅」は北米のトップブランドに成長し、40年の歴史に裏打ちされた確かな技術力と、現地に拠点がある強みを活かし、市場環境やニーズを捉えたイノベティブな商品開発に挑戦しています。

※2001年より毎年開催されている日本国外で最も歴史の長い清酒の品評会。優秀な評価を得た出品酒に金賞と銀賞が授与される。



カリフォルニア州パークレーの米国宝酒造

日本食文化普及のための啓発推進



MIYAKO SUSHI & WASHOKU SCHOOL

MTCでは、2008年から日本食料理人を養成する「MIYAKO SUSHI & WASHOKU SCHOOL」や、2010年から和酒のスペシャリストを育成する「Sake School of America」等、日本食・和酒の普及活動を行っています。また、米国宝酒造の清酒資料館「SAKE MUSEUM」(1997年～)では、清酒まつわる展示や、テイスティングルームで実体験の場を提供するなど、和酒文化の啓発に努めています。商品を販売するだけでなく、料理人の養成や清酒の文化を広めていくことで、北米での日本食文化の浸透に取り組んでいます。



SAKE MUSEUM

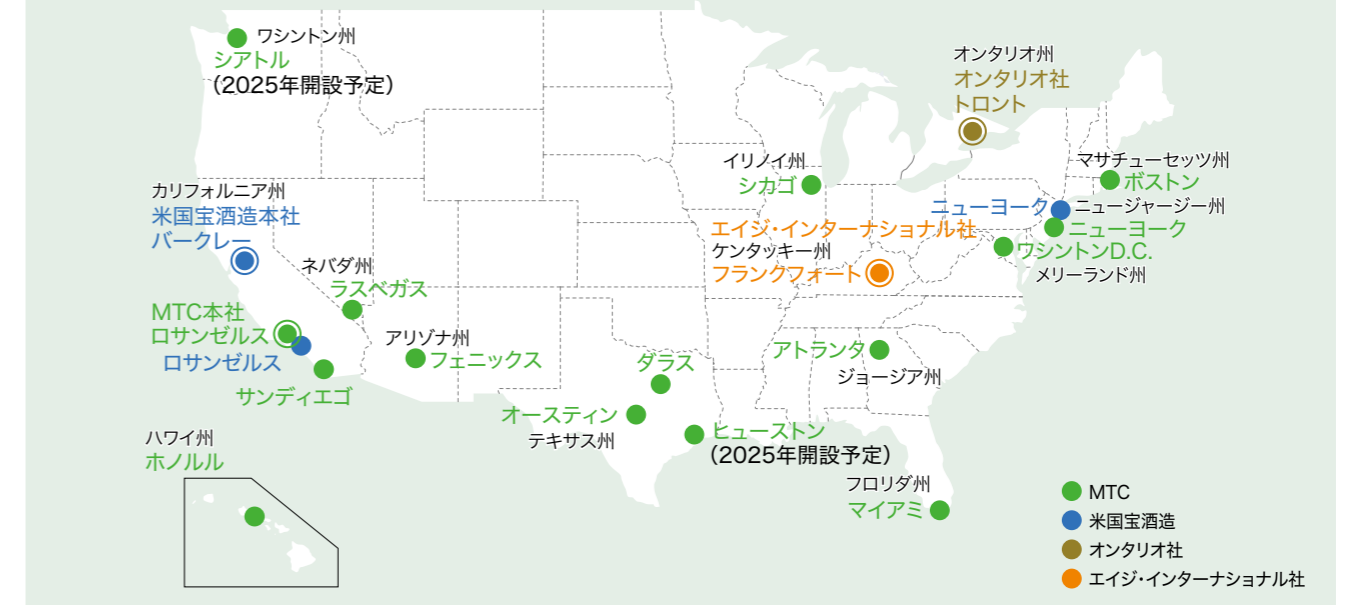
Smiles in Life

～笑顔は人生の宝～

北米における日本食材卸の拠点を拡充

北米における日本食材卸事業は、MTCが米国に拠点を展開。今後、経済成長著しいテキサス州ヒューストン市や、これまで進出していなかったワシントン州のシアトル市にも新たな拠点の開設を計画しています。これにより、北米における日本食材卸網は、12州15拠点となりますが、今後もさらに拡充を進め早期に20拠点を目指します。また、海外酒類事業における和酒は、カリフォルニア州の米国宝酒造と、カナダ・オンタリオ州の清酒やSakeカクテルを製造・販売するOntario Spring Water Sake Companyで展開。和酒の製造から日本食材の販売まで、両事業の幅広いネットワークを活用して、日本食文化の浸透を図っています。

北米の宝酒造インターナショナルグループ事業拠点



北米における宝グループと日本食普及の歴史

北米での宝グループの歴史		北米での日本食普及の歴史	
1926年	● Mutual Trading Co., Inc.(以下、MTC)創業		
1951年	● 北米向けに清酒「松竹梅」の輸出を開始	1963年	● ニューヨーク(NY)に日本食レストラン「レストランニッポン」が開業
1965年～	● 米国における寿司の普及を促進(MTC)	1965年	● ロサンゼルス(LA)で「川福」と「東京会館」が開業し、「スシパー」導入
1971年	● 純米酒の米国初輸入:「デラックス松竹梅」(MTC)	1960～70年代初頭	● LAで「カリフォルニアロール」が生まれる
1983年	● Takara Sake USA Inc.(以下、米国宝酒造)設立。「松竹梅 クラシック」の現地製造・販売を開始	1970～90年代	● 健康志向の高まりにより、富裕層の間でスシブームがおきる
	● 日本食シェフ用の調理器具やレストラン用品に特化したショールームを開設(MTC)	1993年～	● スシレストランが全米に広がる(スシ・燗酒・エダマメ)
1989年	● 第1回日本食レストランショー開催(MTC)	1995年頃～	● NOBU NYが開店。フュージョン和食が生まれる
1992年	● Age International, Inc.をグループ化	2000年	● 回転スシが広がる
1997年	● 米国宝酒造内に「SAKE MUSEUM」完成	2000年代～	● 全米の日本食レストラン5,980店 ^{※3}
2008年	● 「MIYAKO SUSHI & WASHOKU SCHOOL」開校(MTC)	2010年	● スシ以外の日本食が広がる(ラーメン・焼鳥・餃子・カレー)
2010年	● 「Sake School of America」開校(MTC)	2010年	● 全米の日本食レストラン14,129店 ^{※3}
2011年	● 「松竹梅 クラシック」金賞受賞 ^{※1} (米国宝酒造)	2013年	● 「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録
2013年	● 「松竹梅 純米大吟醸」金賞受賞 ^{※2} (米国宝酒造)	2020年～	● コロナ禍でテイクアウト需要が高まる(スシ・Bento・Don)
2016年	● MTC創立90周年	2022年	● 全米の日本食レストラン23,064店 ^{※3}
	● MTCをグループ化	2023年	● 「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され10周年
2023年	● Ontario Spring Water Sake Companyをグループ化		
	● 米国宝酒造設立40周年		

※1、※2:全米日本酒飲評会 ※3:(出所)JETRO

特集2 遺伝子治療の重要プラットフォーム

ウイルスベクターの製造・開発への取り組み

ウイルスには病気の原因となる悪役のイメージがつきまといりますが、上手に利用すれば優れた治療薬になることが分かってきました。現在、多くの製薬企業やバイオベンチャーがウイルスを使った新薬開発に乗り出しており、承認薬も登場しています。タカラバイオでは、注目を集める新しい創薬プラットフォームについて、開発から商用生産までワンストップでクライアントを支援するCDMO事業を展開するほか、独自の創薬基盤技術開発を進めています。

ウイルスの生活環(ライフサイクル)

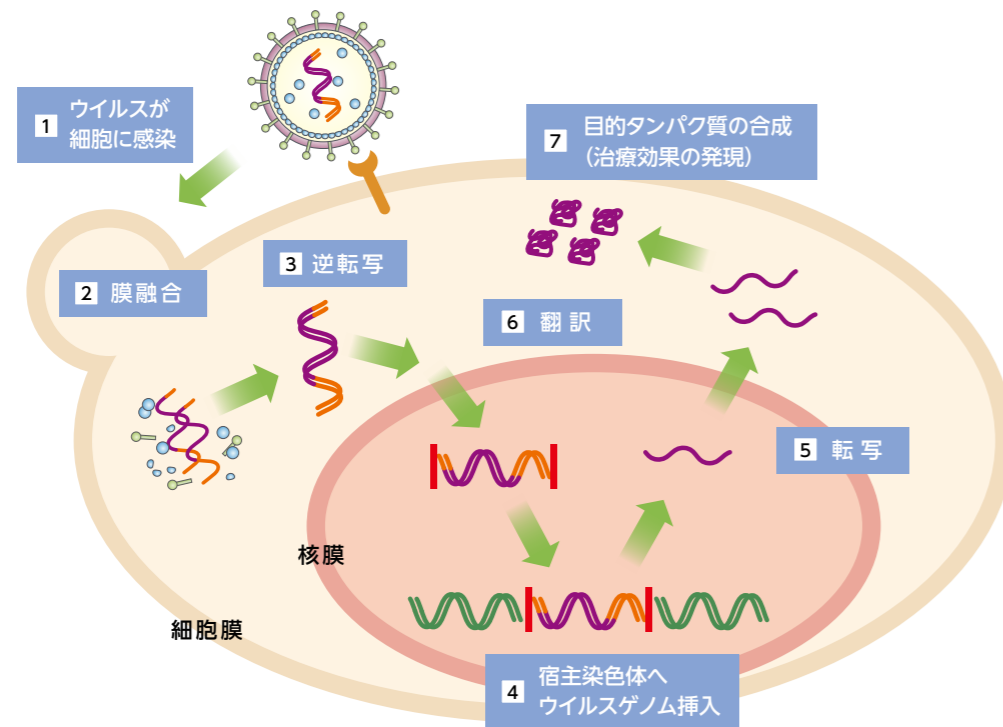
ウイルスは遺伝子とこれを包む殻から成る簡単な構造をしています。ウイルスは自ら増殖することができず、宿主となる細胞に感染し、増殖します。ウイルスがどの生物のどの細胞に感染するかは、ウイルスごとに決まっています。宿主となる細胞を見つけたウイルスは、細胞の中に入り込み、自らの遺伝子の情報をもとに宿主細胞のシステムを借りて子孫のウイルスを大量につくり出します*。

*一部のウイルスは宿主細胞内で休眠状態になることが知られています。

ウイルスがクスリになる仕組み

遺伝子治療では、ウイルスが特定の細胞を見つけて、遺伝子を細胞内に運び込む性質を利用します。治療に用いられるウイルスは人工的に改変され、病原性に関連する危険な遺伝子は事前に除かれ、治療用の遺伝子に置き換えられます。このように遺伝子の運搬を目的に改変されたウイルスは「ウイルスベクター(遺伝子の運び屋)」と呼ばれ、遺伝子治療では中心的な役割を果たします。

● ウイルスベクターが治療効果を発現する工程



代表的な遺伝子治療ベクター

① アデノ随伴ウイルス(AAV)ベクター

治療用遺伝子を載せたAAVベクターは、全身もしくは局所に直接投与する体内(in vivo)遺伝子治療に使用される。承認薬(適応:血友病A、B、筋ジストロフィーなど)や開発中の治験製品(加齢性黄斑変性症、網膜色素変性症)などで実績がある。

② レンチウイルスベクター

血液がんの治療薬として実績がある。T細胞(免疫細胞)にレンチウイルスベクターを用いて治療用遺伝子を導入し、この遺伝子導入細胞を投与する体外(ex vivo)遺伝子治療で使用される。

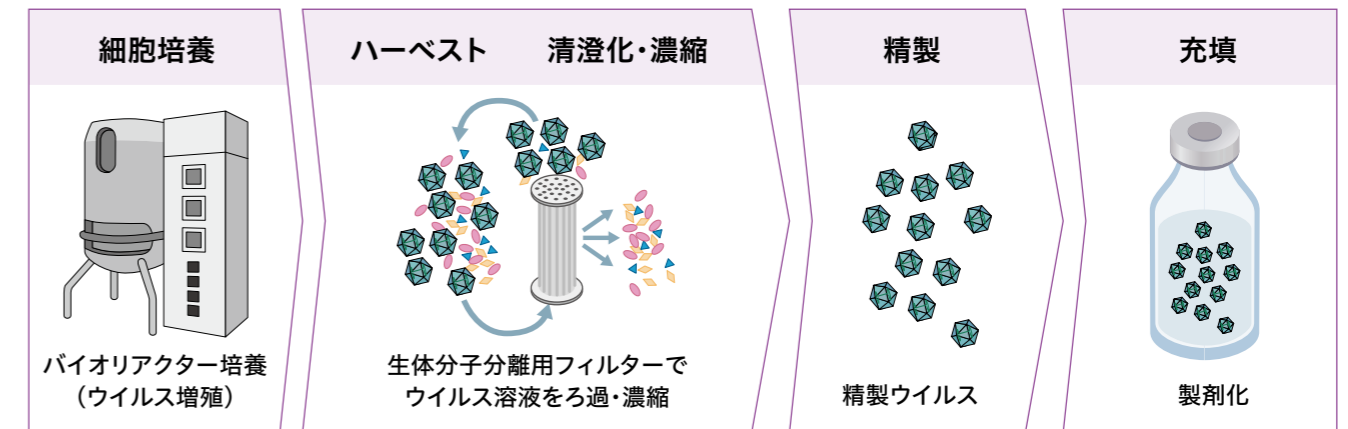
Smiles in Life

～笑顔は人生の宝～

■ タカラバイオの取り組み

1 ウイルスベクターの製造(CDMO事業)

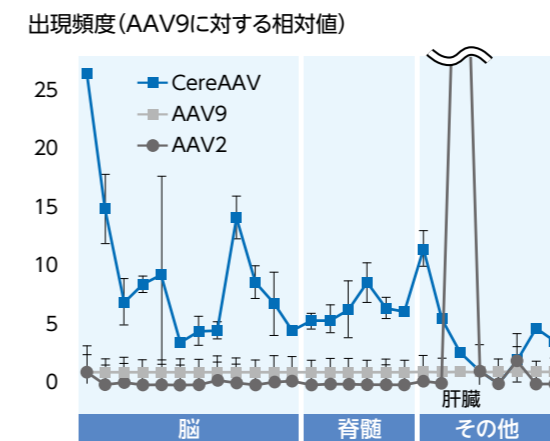
ウイルスベクターの製造は、特殊な加工を施したウイルス生産細胞を培養し、細胞や上清からウイルスを抽出・精製することによって行われます。製造には特殊な技術や設備を必要とし、GMP(医薬品製造の品質管理基準)に準拠した厳重な管理下で行われます。このため専門の事業者へのアウトソースが一般的です。タカラバイオでは最先端の設備を整備し研究開発から商用生産までワンストップでサービスを提供しています。



2 ウイルスベクターの開発(創薬基盤技術)

タカラバイオでは、ウイルスを人工的に改変して、臓器や細胞への指向性がより高いウイルスベクターを開発しています。指向性を強化することで、接種量を減らし、予期せぬ有害事象を防止するほか、コストの抑制が期待されます。タカラバイオでは、脳や内耳組織に遺伝子を効率的に送達できるウイルスベクターを創出し、その応用開発を進めています。

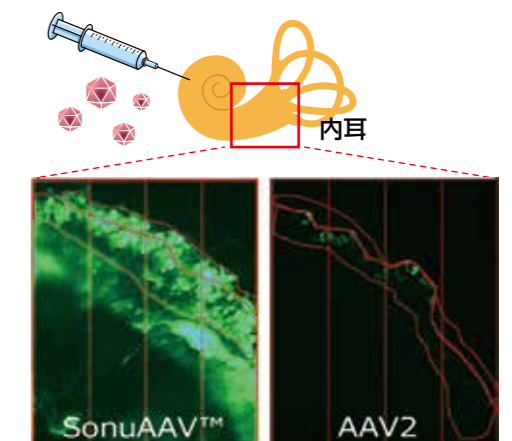
脳指向性ベクターCereAAV™



CereAAV™は、脳や神経に高い指向性を持つ。グラフはカニクイザルを用いた指向性試験の結果。既存の遺伝子治療ベクター(AAV2、9)と比較し、脳や脊髄への指向性が高い一方で有害事象の原因となる肝臓への指向性が低いことが分かる。

※ 東京都医学総合研究所 原田高幸プロジェクトリーダー・行方彦研究員らとの共同研究データより

内耳指向性ベクターSonuAAV™



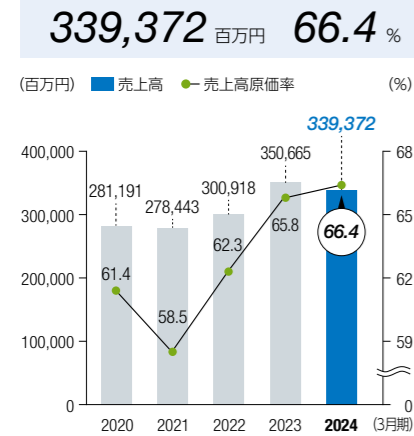
SonuAAV™は既存の遺伝子治療用ベクター(AAV2)の95倍以上の効率で内耳支持細胞に遺伝子を導入する(図の緑色の部分が遺伝子の導入部位)。また、疾患モデルマウスを使用した試験から遺伝性難聴に対する治療効果が期待されている。

※ 順天堂大学 神谷和作准教授との共同研究データより

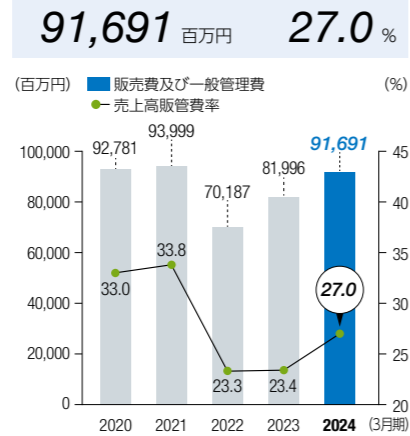
宝グループの「いま」

財務ハイライト

売上高・売上高原価率



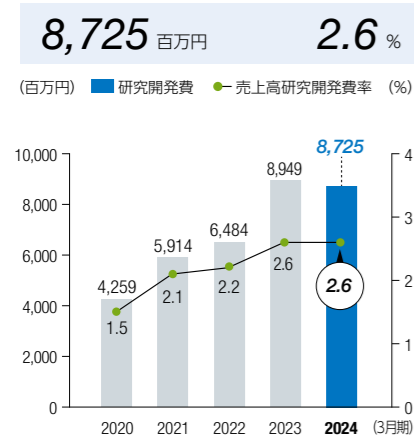
販売費及び一般管理費・売上高販管費率



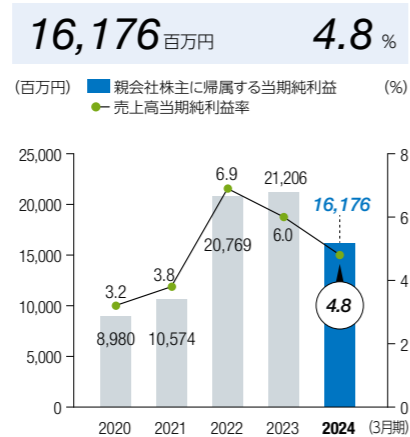
営業利益・売上高営業利益率



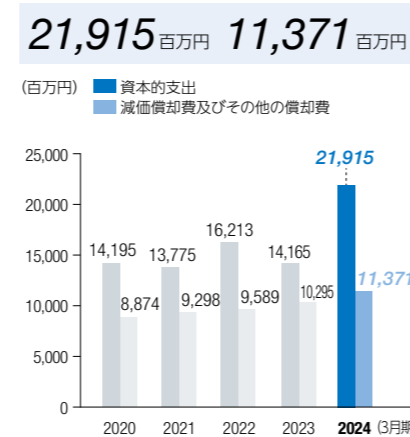
研究開発費・売上高研究開発費率



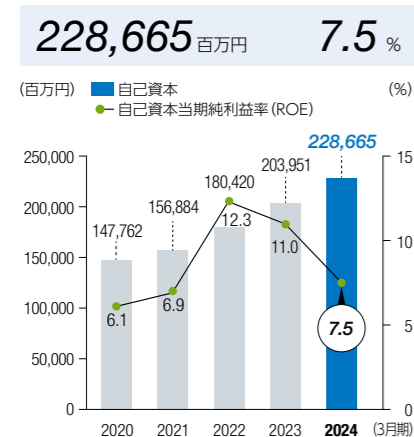
親会社株主に帰属する当期純利益・売上高当期純利益率



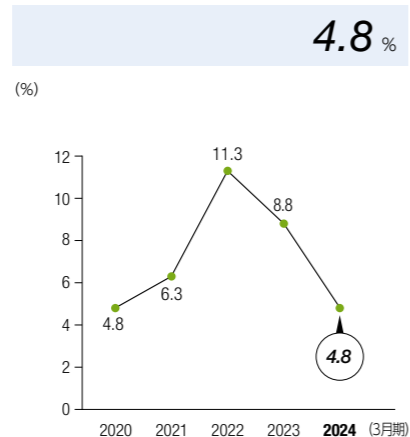
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費



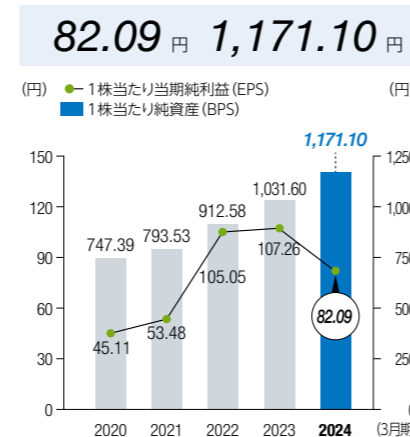
自己資本・自己資本当期純利益率(ROE)



投下資本利益率(ROIC)



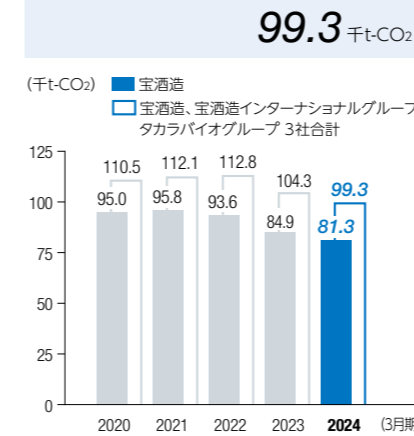
1株当たり当期純利益(EPS)・1株当たり純資産(BPS)



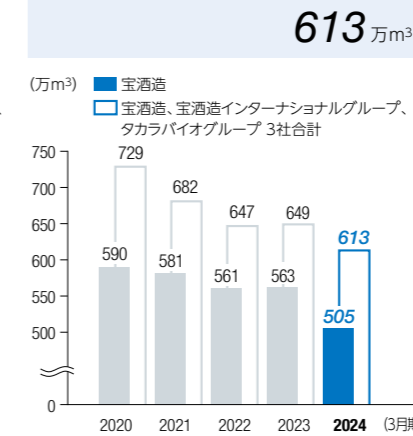
2022年3月期より、「収益認識に関する会計基準」等の適用に伴い、従来販売費及び一般管理費で処理していた費用の一部を売上高から控除しております。
2021年3月期以前の売上高および販売費及び一般管理費は「収益認識に関する会計基準」等の適用前の数字となっております。

非財務ハイライト

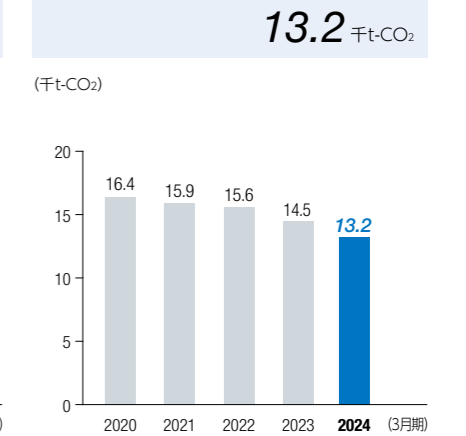
生産工程でのCO₂排出量



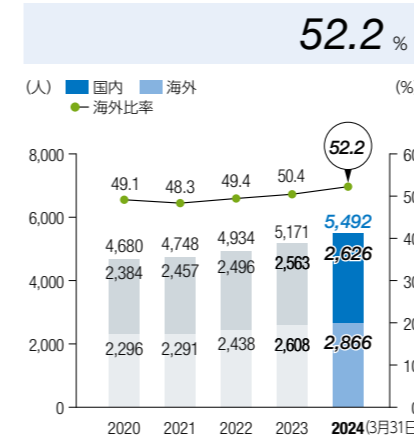
生産工程での水使用量



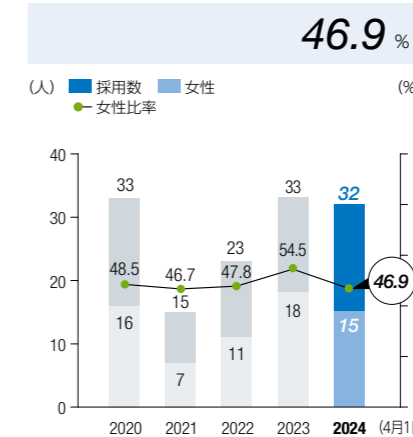
物流工程でのCO₂排出量 (宝酒造)



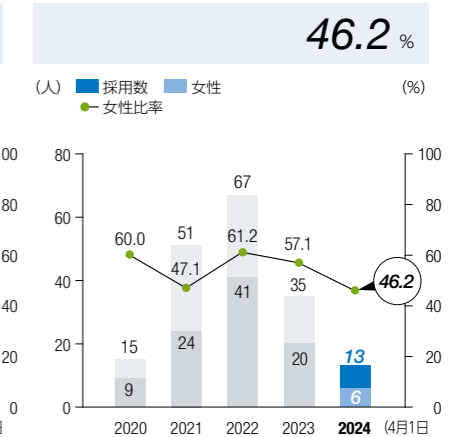
海外従業員比率



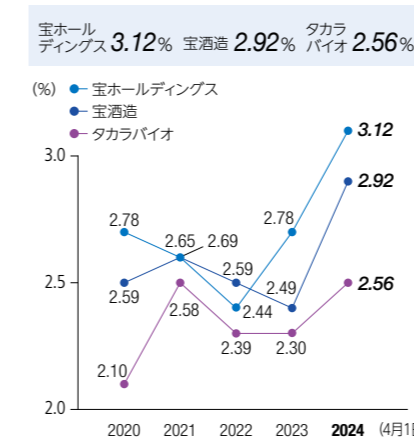
新卒採用者における女性比率 (宝ホールディングス、宝酒造、宝酒造インターナショナルの3社)



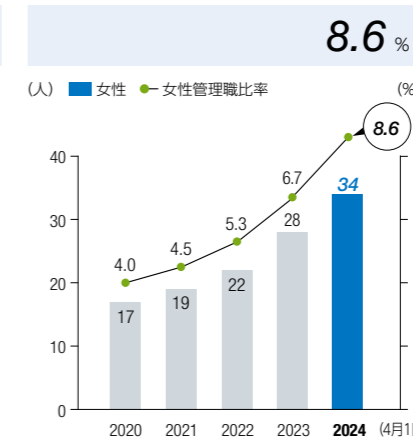
新卒採用者における女性比率 (タカラバイオ)



障がい者雇用率 (宝ホールディングス、宝酒造、タカラバイオ)

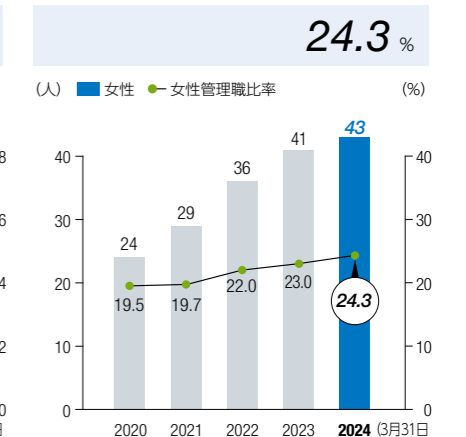


女性管理職比率 (宝ホールディングス、宝酒造、宝酒造インターナショナルの3社)



※管理職＝課長職以上

女性管理職比率 (タカラバイオ)



※管理職＝課長職以上